

平成22年度 景況調査結果（測定分析部門）

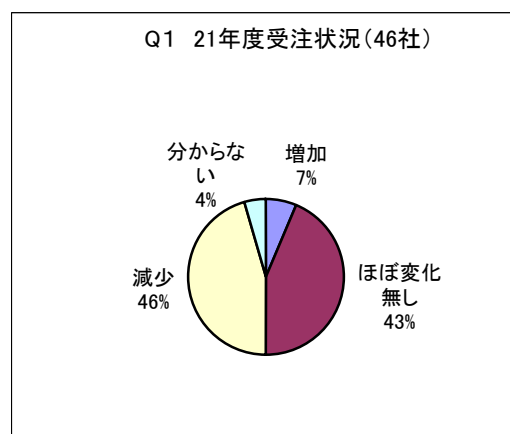
回答数 47社（1社はQ1～3について回答無し）
回答率 62%

Q1 受注状況(21年4月～22年3月) 回答数46

業績が、昨年度比殆んど同じであったのは、4割強。減少は、4割強。ほぼ同じ又は減少をあわせると約9割であった。受注増は3社であった。

	回答数
減少	21
ほぼ変化無し	20
増加	3
分からない	2

1社回答無し



Q2 受注状況が増加した(3社)要因 複数回答可

回答があった会員のうち、一割に満たない会員が受注量を増加できた。

	回答数
受注件数が増加	3
新規顧客獲得	1
新規業務	1
実勢価格上昇	0
入札方式変化	0
技術向上	0
ISO取得効果	0
その他	0

Q3 受注状況が減少した(21社)要因 複数回答可

受注価格が低下しても、何とか受注量を確保しようとした努力がみられた。

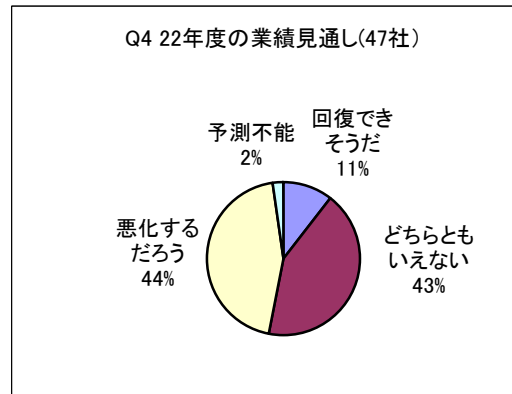
	回答数
受注件数が減少	19
競争が激化	15
実勢価格が低下	12
入札方式が変化	5
その他	0

1社回答無し

Q4 22年度業績見通し(47社)

回答があった会員のうち、その約9割が、今後に不安を抱えつつ、事業を継続・維持している。
業績回復基調にある会員も21年度調査比では、3社から5社に増加し、微かな光明をみることができる。

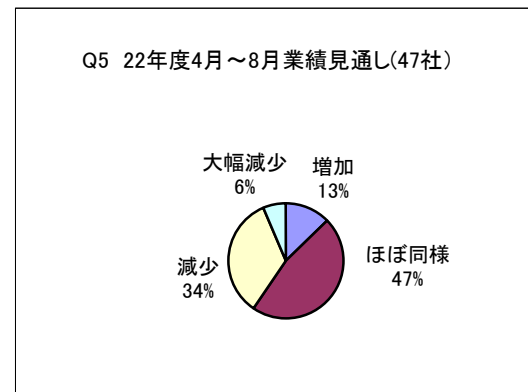
	回答数
悪化するだろう	21
どちらともいえない	20
回復できそう	5
予測不能	1



Q5 22年度4月～8月までの業績(47社)

概ね前半期の業績による判断では、やや回復気配がみられる。しかし、後半期も大幅な回復は望めず低調傾向が持続していくのではとの観測をしている。
21年度調査とほぼ同様で、業績依然低調の見通しをもっている。

ほぼ同様	22
増加	6
減少	16
大幅減少	3



22年度全般の見通し(受注状況DI)

* 前年度と比較して受注が回復しているか
良くなった(ほぼ同様・増加)と回答した割合から、悪くなった(減少・大幅減少)という割合を引いたもの
22年4月～8月受注状況DI=0.60-0.40=0.2
昨年21年(4月～9月)の受注状況DIは、-0.3であった。

		22年度業績見通し			
		増加できそう	どちらともいえない	悪化するだろう	予測不能
22年度 4月～8月業績	増加	4	2	0	0
	ほぼ同様	1	15	5	1
	減少	0	3	13	0
	大幅減少	0	0	3	0

Q6 前年度比増加した(6社)要因

業績を回復したまたは、しつつある会員は、受注量の増加、業務範囲の拡大又は市場開拓に

成果があったと回答した。

	回答数
受注件数増加	6
新規業務を拡大	2
新規顧客獲得	1
実勢価格上昇	0
入札方式変化	0
技術向上	0
ISO取得効果	0
その他	0

Q7 前年度比減少した(16社)・大幅減少した(3社)要因 複数回答可

官公庁を中心の物品等調達方式の変化は、以前に増して受注を確保困難が続き、業績回復に少なからぬ影響を与えている。

	回答数
受注件数の減少	15
実勢価格低下	10
競争の激化	10
入札方式の変化	5
その他	0